

てんやニャンやの誕生日

◆ 朝 5 時、特別なモーニングコール

アラームが鳴るより早く、ふわりと布団が揺れる。
金髪王子アビイが、飼い主の顔をちょんちょんとつついてきました。
「お誕生日だから特別サービス？」と、飼い主は思わずニヤリ。
なでなでされてご満悦のアビイ。
喉をゴロゴロ鳴らし、目を細めています。

そこにビオラが颯爽と登場。
勢いよくベッドに飛び乗った瞬間——
「ギャギャギャギャ！」
アビイの猫パンチ炸裂！！
「アビイちゃんっ！」
思わず叫ぶ飼い主。
ビオラはしっぽをまるく膨らませて即退散。
アビイの癩癪は、今日も絶好調です。

◆ ぽーちゃんは許すけど…

不思議なことに、ぽーちゃんにはなぜか寛大なアビイ。
朝ごはんのあと、ぽーちゃんが甘えに来て、アビイは知らんぷりしながら黙認。
しかしビオラが近づこうものなら、
「また来たのか」とばかりに去って行く三角関係。
いったいいつ落ち着くのでしょうか。

◆ 蜂刺されパニック！

午後、外出先から帰宅した飼い主。
庭のツタを引っ張った、そのとき——
「ブー——ン！」次の瞬間、大腿部にチクリッ！
「キャー——！」
荷物を放り出し、玄関に飛び込みます。
アロエを引きちぎっては患部に押し当て、
「痛いよ～～！おかあさん、蜂に刺されたよ～～！」と大騒ぎ。
アロエを何往復も運び、ジェルをぬりぬり。
ようやく痛みが引いてきたころには、すっかり汗だくでした。

◆ 猫たちの沈黙の気遣い

……その間、猫たちはなんといつもの「ごはん！ごはん！」コールもなく、

家中がしんと静まり返っていました。

「いったい、どこに隠れていたの？」と探すと、
三匹そろって玄関近くで、じっと神妙な顔で待機中。
まるで「母ちゃん、大丈夫か？」と言いたげな目で見つめていました。

こうして、蜂刺されも大事に至らず、
誕生日の夜はしみじみと静かに過ぎていったのです。